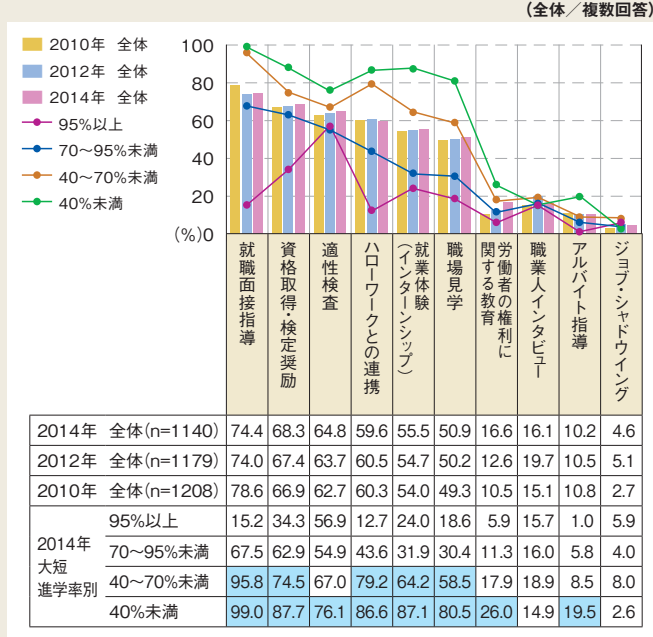


# 勤労観を育み、早期離職を防ぐ 就職指導事例

高卒で就職した者の早期離職率(3年以内)はおよそ4割。苦勞してつかんだ就職先を、彼らはなぜ、早々に辞めてしまうのでしょうか…。  
就職指導の現場で、先生方が見てきたのは、生徒たちの自己肯定感の低さや、「どうせ自分なんて」というあきらめの気持ち。  
社会人基礎力を育み、視野を広げ、少しでも前向きな気持ちで送り出したい…就職校2校の取り組みをご紹介します。

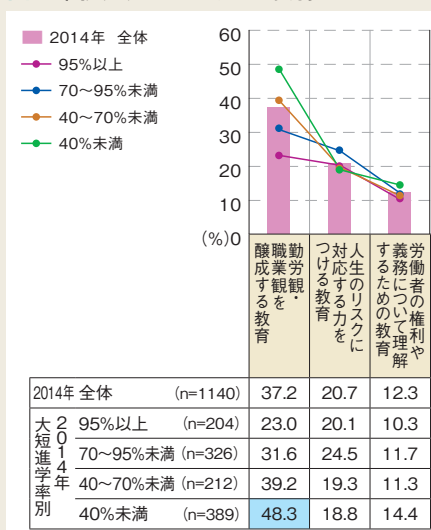
取材・文／永井ミカ

図1 現在、実施している進路指導の取り組み<抜粋>



※図1、図2ともに「2014年 全体」より5ポイント以上高い数値を 色で表示

図2 今後注力していきたい教育<抜粋> (全体／複数回答)



※小社「高校の進路指導・キャリア教育に関する調査」より(調査時期:2014年10月 調査対象:全国の全日制高校の進路指導主事)

就職内定がゴールではなく、  
就職後を見据えた指導が増加

厚生労働省の調査によると、新規高校卒業者の39・6%が3年以内に離職している(2011年3月卒業者の場合)。

今回、事例で紹介する2校も、就職希望の生徒たちの進路について先生方が最も憂慮しているのは「早期離職」だ。場合によってはやっと決まった就職先を、誰にも相談せず数日で辞めてしまうケースもあるという。

理由として上がってきたのは、大きく2つ。1つは社会人基礎力の不足だ。特に

「聞く」「伝える」などの基本的な「コミュニケーション」がおぼつかないために、職場内の現実のやりとりに対処できない。そしてもう1つは、職業観・就業観の未発達によって、具体的にどんな仕事をするのかさえわからずに進路決定を行ってしまうこと。自分の適性や希望まで踏み込んで考えた経験が少ないのだ。これらに加えて昨今のブラック企業問題も、無視できなくなっている。

小社「高校の進路指導・キャリア教育に関する調査2014」では、「適性検査」「就業体験(インターンシップ)」「職場見学」などの実施率が少しずつ伸びて

いることがわかってきている(図1)。「労働者の権利に関する教育」については、社会保険労務士や弁護士などの協会とも連携し、出前授業を積極的に行っている地域もあり、年々実施率が増えている。特に進学率40%未満の就職校で26%と実施率が高い。

就職校や進路多様校では、就職試験に合格することがゴールではなく、長期的視点でミスマッチを防ぎたいという思いが強く、今後「勤労観・職業観を醸成する教育」に注力したいという割合は進学率40%未満で半数近くに上る(図2)。

なかなか夢をもてず、自己肯定感が低い就職校の生徒たちに、社会人基礎力を身につけさせ、自己効力感をもてるようにするにはどうすればよいか。就職指導に力を入れている2校が取り組む事例を、紹介したい。

# 進路学習発表会から労働者の権利教育まで 地域の協力を仰ぎながら自信をもたせていく

## 北海道富川高校（北海道・道立）

2015年度より、商業科を閉科し普通科コース制の高校として生まれ変わった北海道富川高校。周囲は牧場が多い非常にもどかな環境で、生徒数は約100人と小規模だ。日高町唯一の全日制高校として、地域と協力し合いながらキャリア教育を推進。生徒の約半数が就職するが、2年連続で就職率100%を達成した。

### 〳〵となく〳〵の生徒を

### 目的意識のある社会人に

北海道富川高校の3年間のキャリア教育は忙しい。「将来の目標がはっきりしている生徒、成績優秀な生徒は町外の高校に行くことが多い。富川に入学する生徒は、何となくというタイプがほとんどです」と郷恭博先生。「そういった生徒が視野を広げたり夢を語ったり困難な目標にもチャレンジできるよう、『気づきの体験』を次々に仕掛けていきます」。

1年生では、興味がある仕事についてグループで調べながら、コミュニケーション

を養成。2月の発表会には、地域の大人も招く。並行して、大学生と語り合う「カタリバ」や、バスで大学や企業を見学する「施設巡検」も実施する。2年生ではインターンシップが核となるが、ここでも最後には地域の人たちを招いて報告会を実施。「自分の考えを伝える」力を繰り返しつけていくのだ。「劣等感を打ち破り、チャレンジする力をつけさせたい。意見を述べた経験は生徒の自信につながります」と石川博之先生は言う。

3年生では、進学・就職関係なく、全教員で全員の面談を行う。面接の上達ももちろんだが、何度も志望動機を語らせることで、自分の言葉が肉付けされ、目標が自分の腹に落ち、確固たるものになる。さらに、内定した生徒に対しては、敬語やマナーの指導を徹底。「職場で叱られることが離職の原因になることもあります。ここで叱られる経験は非常に大切」と、進路指導部の山崎浩和先生は語る。そして、卒業前には社会保険労務士に、労働者の権利に関する出前講座を行ってもら

う。就職先で何か疑問をもったからといって、簡単に離職しないで欲しいという思いから始めたものだ。

「多くの指導は就職のためだけでなく、早期離職の防止も考えて行っています」と進路指導部長の南部真人先生。「何となく入学してきた生徒が、そのまま何となく就職してしまつと、離職する率が上がります。進路目標が明確であるほど離職しません。富川の生徒たちは、ま

だできる！まだ伸びる！これからも、自分のことや将来のことを考え語る機会を、数多く設けていきたいです」



前右から  
進路指導部長  
南部真人先生  
進路指導部  
山崎浩和先生  
後右から  
進路指導部  
石川博之先生  
進路指導部  
郷恭博先生

### School Data

1951年創立／普通科 生徒数102人(男子55人・女子47人) 進路状況(2014年度実績) 大学12%、専各30%、就職52%、その他6%

### 3年間のキャリア教育

#### 1年

- 進路講話
- コミュニケーションスキルトレーニング
- 進路ガイダンス(苫小牧駒澤大学)
- カタリバ
- 作文指導
- 施設巡検
- 礼法指導
- 模擬面接指導
- 職業別ガイダンス
- 進路学習発表会(見学)
- 職業を知る会

#### 2年

- 進路講話(進路相談員)
- 個人面談・三者面談
- 分野別ガイダンス
- カタリバ
- インターンシップ
- 職業講話(ハローワーク)
- 模擬面接指導
- 進路学習(一般常識)
- 進路学習発表会(見学)
- 進路学習(SPI入門)

#### 3年

- 進路ガイダンス
- 進路講話(ハローワーク)
- 分野別進路講座
- 進路学習(一般常識)
- 書類作成・面接練習
- 三者面談
- カタリバ
- 分野別ガイダンス
- 実践面接・履歴書作成指導
- 書類作成指導
- 外部面接官指導
- 進路学習発表会
- ビジネスマナー講習
- 社会保険労務士による出前講座

# 職業や大学に関する講話を「協同学習」にアレンジ。 社会人として必要な「聴く力」「伝える力」を育む

あさけ  
朝明高校 (三重・県立)

「卒業後を幸せに生きられるように」をキーワードにキャリア教育を実施している朝明高校。例年、6〜7割が就職するが、早期離職も少なくなかった。ある年、工場に就職した卒業生が早々に離職した。理由をたずねると、「工場で扱っている食品が目にはみえてつらい」ということだった。「先輩社員に相談することができなかった。また、工場ではGoogleを貸し出していたが、その連絡を聞き逃していた」ということが、後にわかった。

## 3年間のグループ学習による 役割意識が生徒を成長させる

「このようなことがあるたびに、社会人に必要な『聴く力』と『伝える力』を早急に育成する必要があると考えていました」と言うのは、進路指導主事の井波利彰先生。そして、4年前に導入したのが「協同学習によるキャリア教育」。互いに異なる学習をして、それをグループ内で報告し、互いに教え学びあう「ジグソー法」をヒントに指導案を作った。

1年生の場合、ハローワークや企業、大学、短大、専門学校を学校に招いて、各教室において分科会形式で講演してもらった。生徒は自分に割りあてられた講演を聴き、ポイントをメモし、自分が所属するグループに持ち帰って5〜6人のメンバーに伝える。聴くほうもまたメモをとってまとめる。2年生、3年生でも、卒業生を講師に招くなどのアレンジを学年ごとに加えながら、この協同学習を実施する。

理想は年1回学習し成果を積み上げていくことだが、学年団によっては実施しにくいこともある。「うちの生徒にはとてもできない」と失敗への不安を感じる先生が多いからだ。福井彰子先生もそのひとりだったが、それでも詳細な指導案をもとにやってみたら、「生徒たちの頑張りを実感しました。今では必要な学習だと思っています」と言う。

「1年生で実施して、メモがとれないことに愕然としました」と言う国語科の丸野浩一郎先生は、国語の授業でもメモをとらせ評価の対象にすることにした。「協

同学習によるキャリア教育」は教師にも気づきをもたらした。教科指導にも影響を与え始めている。

昨年度の3年生は初めて3年間実施した学年。担任をもった中野綾子先生は「1年生のときは参加しない生徒もいましたが、3年生では全員参加し講師に質問をする生徒も。聞いた話を責任をもって仲間に伝えようとし、ワークシートも埋まっていた。成長を感じました」と言う。

「最初からうまくはいきませんが、失敗を反省することで力がつきます。生徒も先生も、そして卒業生にも協力してもらい、学校全体で力をつけていくことが、今、朝明高校には必要です」(井波先生)。

## 協同学習のワークシート (1年生用)

ダウンロード可



後列右から  
進路指導主事  
井波利彰先生  
学年主任  
丸野浩一郎先生  
前列右から  
中野綾子先生  
福井彰子先生

### School Data

1978年創立／普通科 生徒数759人(男子442人・女子317人)  
進路状況(2014年度実績) 大学8%・短大5%・専各19%・就職66%、  
その他2%